

平成28年度 第70回卒業証書授与式 式辞

「置かれた場所で咲きなさい」

長く冷たい冬も終わり、木々の芽吹きにようやく春を感じられるようになったこの佳き日に、朝霞市教育委員会委員長 岡野忠正様、朝霞市監査委員事務局長 塩野 彰様を始め多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、またかくも多くの保護者の皆様にご列席をいただき、平成二十八年度本校第七十回卒業証書授与式が挙行できますことに心より感謝申し上げます。式典に際しまして一言申し上げます。

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。只今みなさん一人ひとりに卒業証書をお渡ししました。今年度は朝霞第一中学校創立七十周年の節目であり、みなさんは記念すべき第70回の卒業生ということになります。今みなさんが手にしている一枚の証書は、70年の長い歴史の上に積み重ねられたものです。そして小学校と合わせて九年間の義務教育が修了した証です。どうかその重みを感じて下さい。

さて三年生のみなさん、君たちとは入学以来三年間の付き合いでした。三年前の四月、大き目の制服に身を包み、緊張して入学式に臨んだみなさんの姿が昨日のここのように思い出されます。みなさんが一年生の頃は、少し学校が落ち着かない状態でした。その中で一年生だったみなさんの素直さや一生懸命さに何度も救われました。二年生の時には学校全体が落ち着いた生活が送れる

ようになり、学習や部活動に熱心に取り組むようになりました。みなさんやみなさんの先輩たちの学校を良くしようという思いや意気込みを感じられた一年間でした。そして今年、最上級生となったみなさんは、七十周年の節目にふさわしい立派なリーダーとして学校をけん引してくれました。私は事あるごとに、みなさんに学校生活は「点」ではなく「線」であると言い続けてきました。そして今日みなさんが朝霞一中に入学してから刻んできた1080日の点の一つの線となりました。学校行事などの特別な日もそうですが、そのほとんどは私がいつも「大事だよ」と言ってきた平凡な日々と普段の生活の積み重ねです。その積み重ねの中で時間を守ったり、けじめをつけたり、声を掛け合ったりして頑張ってきた結果が今日という日につながっているのです。改めて当たり前のことを当たり前続けることの大切さに気付いてほしいと思います。

さあそれでは、巣立ちゆくみなさんに私から最後の授業をします。この授業は同時に後ろにいる1・2年生に向けて行うものでもありますので、よく聞いてください。最後の授業のテーマは「置かれた場所で咲きなさい」というものです。この言葉は昨年12月に90近い高齢で亡くなられた渡辺和子さんという方の残されたもので、本のタイトルにもなっています。渡辺さんは岡山にあるノートルダム清心女子大学の学長を長く勤められました。30歳でキリスト教の修道院に入り、アメリカで勉強されて帰国し、見ず知らずの岡山に赴任して2年目、36歳の若さで突然、学長に任

命されます。初めての土地、思いがけない役職、未経験の事柄の連続に驚きと困惑の中、周囲の人との関係もうまくいかなくなり、自信を無くし、もうやめようと思ったときに一人の宣教師から短い詩を渡されたそうです。その詩の最初の一行が「置かれた場所で咲きなさい」という言葉でした。その言葉を見て、渡辺さんは考えます。「そうだ、おかれた立場に不平不満を持ち、他人の出方次第で幸せになったり、不幸になるのはやめよう。人間として生まれたからにはどんなところに置かれてもそこで自分の花を咲かせよう。」と決心したのです。その花を咲かせるたった一つの方法は「自分が変わること」だと気づいたのです。それから渡辺さんは自らあいさつし、笑顔で人に接し積極的にかかわるようにしたそうです。すると不思議と周囲の学生も教職員も明るく、優しく接してくれるようになったそうです。

「置かれた場所で咲きなさい」この言葉をみなさんや私の立場に置き換えてみましょう。みなさんは先日の県公立高校の発表を経て卒業後の進路先が決定しました。もちろん第一志望の高校に合格し、喜びにあふれている人も多くいます。しかしその一方でそうではなく、少し不本意な思いをもって進学する人もいます。いつだったかみなさんにお話をしたことがあると思いますが、私自身もそんな悔しい思いをたくさんしてきました。高校受験では第一志望どころか第二も第三も不合格で考えてもいなかった別の

高校に進学しました。大学受験でも受ける大学軒並み落ちて、浪人をし、翌年もみな不合格、本来志望していなかった大学に進みました。就職をするときも教員採用試験に4年連続落ちました。でもその都度与えられた場所と与えられた環境で全力を尽くしてきました。そして今、こうしてみなさんと出合い楽しく充実した日々を過ごしています。

「置かれた場所で咲きなさい」という詩の続きには「咲くということは、仕方がないとあきらめるのではなく、笑顔で生き、周囲の人も幸せにすることです」とあるそうです。長い人生、進学しても、就職しても、結婚して家庭を持ってもうまくいくことばかりじゃあ、ありません。「こんなはずじゃなかった」ということが次々ともあるかもしれません。そんなときにもその状況の中で精一杯咲く努力をしてほしいのです。

渡辺和子さんは本の中で最後にこんなことを書いています。「どうしても咲けない時もあります。雨風が強いとき、日照り続きで咲けない日、そんな日は無理に咲かなくてもいい。その代わりに根を下へ下へと降ろして根を張るのです。次に咲く花がより大きく美しいものになるために」

卒業生のみなさんは今日この朝霞一中を去って新しい場所へ旅立ちます。1・2年生も4月から新しい学年、新しいクラス、新しい仲間との日々が待っています。「置かれた場所で咲きなさい」こ

の言葉の意味をかみしめて、それぞれの花を咲かせてください。

保護者の皆様に申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。大きく成長されたお子様の晴れ姿をご覧になり、感慨もひとしおのことと存じます。私ども教職員一同、皆様からお預かりした大切なお子様の健やかな成長を目指して、三年間全力で教育活動に取り組んでまいりました。保護者の皆様には、これまで本校の教育活動に深いご理解と温かなご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。4月から彼らが置かれる場所に吹く風は、これまでよりも厳しいものになることでしょう。本日皆様のお手元にお子様をお返ししますが、どうか小さな変化も見逃さず、これからも温かく見守っていただきたいと存じます。

最後になりましたが、ご多用の中ご臨席を賜り、卒業生の門出を盛り上げていただいております朝霞市教育委員会委員長 岡野忠正様を始めとするご来賓の皆様の高い席から誠に恐縮ではございますが、厚く御礼申し上げます。今後とも地域の中で、信頼される学校づくりに教職員一同力を合わせて邁進してまいりますので皆様の一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。

卒業生のみなさんの前途に幸多からんことを祈念いたしまして、式辞といたします。

平成二十九年三月十五日

朝霞市立朝霞第一中学校 校長 二見 隆久